

一宮市立市民病院に通院中または過去に通院された患者さんまたは  
ご家族の方へ

薬剤局における臨床研究に御協力をお願いいたします。

現在、経静脈的化学療法 30 日以内の死亡症例における CARG Toxicity SCORE と PaP スコアの有用性の検証に関する臨床研究を実施しております。

このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	経静脈的化学療法 30 日以内の死亡症例における CARG Toxicity SCORE と PaP スコアの関連性の検証
所属（診療科）	薬剤局
研究責任者（職名）	大島 有美子（副薬剤局長）
研究実施期間	倫理委員会承認後 ～ 令和 3 年 12 月 1 日
研究の意義・目的	化学療法治療開始時に、CARG Toxicity SCORE または PaP スコアを用いて評価することで副作用の程度や予後を予測し、適切な治療選択のための有用な情報となるかを検証します。 これらのツールで化学療法開始前に治療の適否や減量などの対策を知ることができれば、化学療法を受けた後の早期の死亡を避けることができ、患者さんの QOL（生活の質）を向上できると考えられます。
対象となる患者さん	2013 年 1 月から 2019 年 12 月までに一宮市立市民病院において経静脈的抗がん剤治療後、30 日以内に死亡した 65 歳以上の患者さん。
利用するカルテ情報	年齢、性別、身長、体重、Body Mass Index(BMI)、Performance status、疾患名、stage、最終化学療法日、レジメン名、投与率、死亡日、聴力低下の有無、転倒歴、服薬介助の有無、歩行可能距離、社会活動性、臨床検査（白血球数、好中球数、リンパ球比率、ヘモグロビン、アルブミン、血清クレアチニン、クレアチニンクリアランス、Karnofsky Performance status
研究方法	最終化学療法開始時の CARG Toxicity SCORE および PaP スコアを電子カルテより後方視的に調査し、それぞれのツールにおいてスコアを算出します。